

2020年7月9日

ニホンアカネ染色講習会

染色指導：杉本一郎 染色かさや儀平・和泉茜の里代表
嶋野賢一・嶋野美知子



ニホンアカネは正倉院御物の染色にも使われ、延喜式にもその染色法が記載されている伝統ある日本古来の茜色を出す植物であるが、その染色法が難しいため、忘れられていった。大阪府忠岡町の杉本一郎氏は、ニホンアカネを復興するために栽培や染色技法の開発をし、それを伝えてニホンアカネの普及に尽力されている。2025年大阪万博の「万博共創チャレンジ」にニホンアカネを登録。

杉本氏独自のニホンアカネの染色方法により、一般的な赤（ピンクから深紅）以外にも黄色からオレンジ色、そして紫色まで色を出すことに成功された。



2021年2月14日

ニホンアカネ栽培講習会

栽培指導：杉本一郎 染色かさや儀平・和泉茜の里
嶋野賢一・嶋野美知子

ニホンアカネは、獣害にあいにくく、耕作放棄地の活用としても注目されて始めている。

杉本氏は、ニホンアカネの栽培をするため準農家の認証を取得し、生産緑地で高齢者の未利用農地を借り受け、現在自宅以外に2か所で1.5反で栽培。今後は5～6000㎡の未利用農地を借り受け栽培を拡大する計画。



上松町のニホンアカネ畑予定地。5～6000㎡ある。アカネ栽培倶楽部などを設立し、会員を募集して栽培をする計画。大阪府南部でも、耕作者の高齢化のため、後継者のいない農地が拡大しており、農地保全にも役立てられる。



真上町のニホンアカネ畑。5aに5tの牛糞を投入し、9月末に苗を植付。白黒マルチ。鉄筋を支柱にして50%遮光のシェードをかけている。夏場は水やりが必要。春先からこまめに草取りをする。すでに新しい芽が出始めている。



ニホンアカネの種。



今後の構想を熱く語る杉本氏



杉本氏の構想は、単にニホンアカネを復活するだけでなく、農業、染色、織業、縫製、デザイン、販売など統合した産業を作ること。

山真中のニホンアカネ畑。1反。牛糞等を投入せず無施肥、種を直播する実験地。黒マルチ。晩秋に種を採取。1月20日に2～3粒づつ播種。2500株。

自宅のニホンアカネ畑。コンテナ栽培で3年目。新芽が出始めている。コンテナで栽培すると根を取り出しやすく、雑草などの管理がしやすい。半面、コンテナ代など費用がかかる。



染色に使うニホンアカネの根(乾燥)。



紫色は杉本氏オリジナル



苗も販売。6個入りのパッケージ